

**霞が関地域「KK<sup>2</sup> Aid Station」活動報告  
～3.11における帰宅困難者支援～**

久保田 了司

財団法人 高度映像情報センター (AVCC)

霞が関ナレッジスクエア担当理事

霞が関地域は夜間過疎地のため、公民館はもちろん、学校・図書館・博物館といった社会資本に乏しく、大規模災害時の避難場所指定がありませんでした。AVCCが運営する「霞が関ナレッジスクエア」(以下、KK<sup>2</sup>)は霞が関地域の民設民営の公民館として2008年春に開設しました。

KK<sup>2</sup>は2010年、首都直下地震等有事に備え帰宅困難者を受け入れる「Aid Station」活動計画を進めていました。その矢先、3.11東日本大震災発生となり、準備不足ではありましたが、帰宅困難者受け入れを行いました。本計画の経緯、そして3.11当日の活動についてご報告いたします。

**I Aid Station 整備計画の背景**

**(1) 帰宅困難者数推定は 30,000 人/日**

霞が関 1～3 丁目の面積は 0.48k m<sup>2</sup>、住民は 5 世帯 9 人<sup>1</sup>、一方で昼間人口 (在勤者) は、59,210 人<sup>2</sup>。最寄駅 (霞ヶ関、虎ノ門、桜田門) の平日乗降客数の 1/2 から、住民、昼間人口、近隣地域昼間人口を引くと、平日 1 日で約 30,000 人の人が霞が関地域を訪れ一定時間滞在すると想定できます。

**(2) 区指定帰宅困難者避難場所の課題**

千代田区は帰宅困難者避難場所として、北の丸公園/皇居東御苑/皇居外苑/日比谷公

園を指定していますが、すべて屋外公園で、スペースはあるがケアするスタッフが不明確、ネットワークインフラ、情報提供手段、寒さ、荒天対策等が懸念されます。



**(3) 「霞が関コモンゲート (霞テラス)」の有効活用**

KK<sup>2</sup>のある霞が関コモンゲートと隣の霞が関ビルの街区は、桜田通りと外堀通りが交差する虎ノ門交差点に隣接、徒歩帰宅者の要所に位置し、誰もが立ち入れる公共広場として多数の帰宅困難者の滞在が想定される。また一階が駐車場、道路となり、霞テラスはその上に広がっていますので、



一階は屋根のある大きなスペースとして寒さ、雨天対策に有用です。

**(4) KK<sup>2</sup> ネットワークインフラを活用**

KK<sup>2</sup> は、インターネット、TV 会議、通信衛星 (CS) 等ネットワークインフラを常

<sup>1</sup> 住民基本台帳 2010.7.1 現在

<sup>2</sup> 2005 年国勢調査より

備、安否確認交通情報提供機能を活かした Aid Station 活動が可能です。

## II 「3.11 Aid Station」活動報告

3.11 の大震災発生時、準備万端ではありませんでした。スタッフは徹夜で帰宅困難者お世話を行いました。何も告知されていない KK<sup>2</sup> を 300 人を超える帰宅困難者が利用されたのは、ツイッター・メール等ネットロコミによるものでした。

### (1) 安否確認サービス

携帯電話/固定電話は、震災時には殆ど機能せず、災害時優先電話やインターネットを活かした安否確認が有効です。災害時優先電話設置を打診するも、民間施設は”No.”(NTT 東) ということで設置できていませんでしたが、当日 KK<sup>2</sup> の固定 IP 電話は通じており滞在者に貸し出しを行いました。

### (2) 手動携帯電話充電サービス

これまでの大規模災害では、携帯電話の通話規制が行われましたが、パケット通信(メールやホームページ閲覧)は利用可能で、情報収集等に活用できていました。そのため携帯電話の充電の要望が多々あり、KK<sup>2</sup> 職員の充電器を集め貸し出しを行いました。今後停電時にも使えるように手動式充電器を整備する予定です。

### (3) パソコンの利用提供

KK<sup>2</sup> には、メンバー向けに無線 LAN、PC 貸出を行っており、災害時にはこれらを滞在する帰宅困難者に貸し出ししました。

### (4) 災害時の情報提供

KK<sup>2</sup> には大型ディスプレイがあり、災害情報として NHK 報道を放映、交通情報等はネットで調べていただきました。CATV 幹線を引くことも検討しましたが、多大な

経費のため断念しました。

また、NHK だけでなく MXTV 等地域型の情報の放映も必要であり、AM/FM ラジオの整備や災害伝言版の告知、帰宅支援マップなどの情報整備も課題となりました。

### (5) トイレの提供・一時休息所の提供

KK<sup>2</sup> のトイレ提供や休憩仮眠の場の提供も行いました。併せて暖かい飲み物やパンなども提供しました。自家発電設備は持ちませんので、停電には今後検討が必要です。

## III 課題 ～地域での「連携」が必須～

今回の活動を受けて、都心の有事の帰宅困難者支援の課題が明らかになりました。

### (1) ビルマネジメントのルール

KK<sup>2</sup> が実施する帰宅困難者支援についてビルマネとの事前のコンセンサスはなく、定められたルールで夜間セキュリティがわかり、通行する帰宅困難者へのトイレ利用提供等ができなくなった。今後有事の際の対応ルール作りが必要となります。

### (2) 震が関地域内での連携

各省や民間企業はその職員、従業員のリスク管理・対策は行っていますが、その時、震が関地域を訪れていた人への配慮が乏しいのが現状です。各省・都・千代田区・民間企業間での震が関の街としての連携が望まれます。

以上